



就労支援フォーラムNIPPON 特別企画

「はたらくNIPPON! 計画」 A型フォーラムin札幌

～北海道からA型事業所の果たす役割について～

分科会

時間 10:00～12:00

分科会1「多様な雇用モデルから学ぶ経営改善のヒントとその未来」

分科会2「A型における就労支援を考える
～中間的就労の試み…などなど」

分科会3「誰もが、当たり前前に働いて生きていける町へ」

※分科会は1・2・3いずれか1つをお選びください。

※分科会の内容は裏面をご覧ください



全体ミーティング

時間 13:00～15:00

1. 分科会報告 各コーディネータから報告
2. 全体ディスカッション テーマ「A型事業所の果たす役割」

A型事業所の果たす役割を考えると、各分科会のテーマはそれぞれ重要な一要素です。大所高所から各パネリストが議論をし、掘り下げます。

日時 平成30年8月4日(土) 10:00～15:00 (開場9:30)

会場 札幌ACU-A (アスティ45 16F) 札幌市中央区4条西5丁目

「JR札幌駅南口」より徒歩5分
「地下鉄札幌駅」より徒歩3分

対象 就労継続支援A型事業所職員、管理者、関係者
定員 200名 (※定員に達した場合のみご連絡いたします)

参加費 無料

ご案内

本フォーラムは「障がい者の働く場パワーアップフォーラム」(8/3開催)との連動企画です。2日間参加希望の方はヤマト福祉財団の「パワーアップフォーラム」事務局ホームページよりお申込み下さい。ホームページ：
<https://www.yamato-fukushi.jp/>

分科会 10:00-12:00

分科会1

「多様な雇用モデルから学ぶ
経営改善のヒントとその未来」

内容

A型にとって事業の確立は最重要事項です。製パン・大福製造事業のさっぽろひかり福祉会、IT事業の札幌チャレンジド、自然養鶏・有機農業Agricola（アグリコラ）の多様な事例から、経営改善のヒントとA型の未来展望を探ります。

- **コーディネータ**
法政大学名誉教授 松井亮輔 氏
- **パネリスト**
NPO法人札幌チャレンジド
理事・事務局長 岡野裕幸 氏
一般社団法人Agricola（アグリコラ）
代表理事 水野智大 氏
社会福祉法人さっぽろひかり福祉会
常務理事 小畑友希 氏

分科会2

「A型における就労支援を考える
～中間的就労の試み…などなど」

内容

一般就労が厳しい障害者にとって、労働者として働けるA型事業所はなくてはならない職場、更には一般就労へのステップです。働きがいのある仕事の提供、働く中での就労支援、また中間的就労の取組みについて学びます。

- **コーディネータ**
株式会社シムス 代表取締役
斎藤規和 氏
- **パネリスト**
株式会社シーケンス 代表取締役
就労継続支援A型事業所OneLife管理者
高山真也 氏
株式会社セブンフレンチ・サポート
就労支援事業所ぐるーあっぴ
サービス 管理責任者 河野亜希子 氏
株式会社ラダーサポート 就労継続支援
A型事業所ラダーサポート 管理者兼
サービス 管理責任者 千葉美穂子 氏

分科会3

「誰もが、当たり前前に働いて
生きていける町へ」

内容

障害者の働く場のなかった芽室町にA型事業所を立ち上げた「プロジェクトめむろ」。地場産業の農業を活用した農福連携での通年雇用の実現から、「働いて生きていく」をキーワードに、A型事業所の果たすべき役割について学びたいと思います。

- **コーディネータ**
NPO法人L and P（エル アンド ピー）
管理者兼サービス管理責任者
高志博明 氏
- **講演者**
株式会社九神ファーム取締役
NPO法人プロジェクトめむろ副理事長
（エフビコグループ特例子会社エフビコ
ダックス株式会社 福山選別工場課長）
且田久美 氏

分科会は上記1・2・3よりいずれか1つをお選びください。（先着順）

※下記の記入欄にご記入の上、FAXにてお申込みください。
申し込みがいっぱいになり次第締め切りにさせていただきます。

A型フォーラムin札幌（FVP）行き FAX送付先：03-5577-6914

「はたらくNIPPON！計画」A型フォーラムin札幌 参加申込書

ご所属（法人名、事業所名）		TEL・FAX		
		TEL： FAX：		
ご住所				
〒				
都・道・府・県			区・市	
職名・役職	お名前（ふりがな）	分科会のご希望（○をお願いします）		
	お名前	分科会1	分科会2	分科会3
	お名前	分科会1	分科会2	分科会3
	お名前	分科会1	分科会2	分科会3

【お問い合わせはこちら】

事務局：株式会社FVP 担当者：森田・田澤
TEL：03-5577-6913 FAX：03-5577-6914 Email：info@fvp.co.jp
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-4-1大手町21ビル10階

「はたらくNIPPON！計画」A型フォーラムin札幌 タイムテーブル

場所	時間		内容
アスティ45 16F 1614号	10:00～12:00	分科会1	多様な雇用モデルから学ぶ経営改善のヒントとその未来
アスティ45 16F 1606号		分科会2	A型における就労支援を考える～中間的就労の試み…などなど
アスティ45 16F 1605号		分科会3	誰もが、当たり前前に働いて生きていける町へ
	12:00～13:00	休憩	
アスティ45 16F 1614号	13:00～15:00	全体 ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者挨拶 1.分科会報告 各コーディネーターから報告 2.全体ディスカッション テーマ:A型事業所の役割 ・大会宣言 ・報告事項

北海道からA型事業所の果たす役割について考える

～全Aネットのめざすもの～

はじめに

近年悪しき福祉ビジネスとしてのA型事業所の存在が問題視されています。その多くがディーセントワーク（やりがいのある仕事の提供）とは程遠い状態です。昨年2月A型事業の運営基準が改正され、同年3月30日解釈通知が発出されました。生産活動収入から経費を除いたものが賃金総額を上回らなければならないことが明文化され、経営改善計画の提出や改善が見込まれない場合には勧告・取消の命令が発動されることになり、全国の7割のA型事業所が経営改善書を提出しました。A型事業所の健全な運営は喫緊の課題です。今年の秋には2年目の行政の指定基準に関する審査等があります。全Aネットとしましては、今後の状況把握に努めるとともに、A型事業を必要とされている障害者のために健全な運営をめざして努力している事業所を、応援していきたいと考えています。

A型の運営の難しさは、福祉施策における事務業務や相談・精神面のサポートに加え、生産性にハンディをもった障害者に仕事を提供しつつ最低賃金をクリアしなければならないことにあります。日本政府は2014年1月に障害者権利条約に批准しました。インクルーシブでディーセントな障害者就労施策は喫緊の課題であります。合理的配慮が社会一般に根付くまでの間、A型の果たす役割は大きいと考えています。また一億総活躍社会の実現が言われています。今後、障害者総合支援法内でのA型事業の可能性の検討の他に、障害者以外の引きこもりやニートなどを含め、大いなるA型の可能性についても検討していきたいと考えています。

全Aネットでは、今年度、日本財団から平成30年度助成「就労支援A型事業所活性化事業」を受託、全国3都市において「A型フォーラム」を予定しています。今回、第1回目をヤマト福祉財団パワーアップフォーラムとの連携事業として「A型フォーラム in 札幌」を開催し、第2回目を11月10日（土）に熊本市で開催、これは日本財団が主催する12月8日（土）～9日（日）に開催される「就労支援フォーラム NIPPON2018」のサブフォーラムとしての位置づけとなります。第3回目を3月9日（土）はさいたま市で予定しています。地域の現場の皆様による意見交換を行ない、良きA型事業所を増やしていきたいと考えています。また、ヤマト福祉財団の平成30年度助成事業「良きA型事業所拡大のための支援事業」を受託、好事例集の作成と優良事業所の認定事業を計画しています。良きA型事業所を増やす施策に取組みたいと考えています。

最後に、助成をいただいた日本財団に深く感謝申し上げます。また連携事業としてご協力いただいたヤマト福祉財団に感謝申し上げます。さらに開催にあたりご協力いただいた札幌市のA型事業所の皆様に深く感謝申し上げます。

平成30年8月4日

NPO 法人就労継続支援A型事業所全国協議会

(全Aネット)

理事長 久保寺一男



NPO法人 札幌チャレンジド

ITでマザル、ハタラク、拓き合う。



就労継続支援
サービス事業
(A型)



就労移行支援
サービス事業
就労定着支援
サービス事業



パソコン講習事業



放課後等デイ
サービス事業



理事・事務局長
岡野裕幸

◆団体理念◆

自立を目指すチャレンジ※1（障がいのある方）が
「ITでマザル・ハタラク・拓き合う」社会を創ります



わたしたち札幌チャレンジ（札チャレ）は
自立を目指すチャレンジのための
「キャリアデザインセンター」※2
として活動しています

※1：チャレンジ（Challenged）とは

「神からチャレンジすべき課題や才能を与えられた人」という意味が込められている新しい英語です。

※2：キャリアデザインとは

自分の仕事（働くこと）について自身の個性や興味などを踏まえて自ら道筋・目標を描いていくこと

◆団体理念◆

**自立を目指すチャレンジド（障害がある方）が
「ITでマザル・ハタラク・拓き合う」社会を創ります**

◆中期経営計画の基本的考え方◆

2020年に札幌チャレンジドは設立20周年を迎えます。20年の節目を踏まえて、社会的企業としてキャリアデザインセンター機能を充実させ、さらなる発展、成長することで、社会課題解決に寄与していきます。

今中期経営計画では、様々な環境変化に対応できる基盤固めと新たな価値を創造していきます。

<視点1> 社会性を追求します

1. 札幌チャレンジドの存在をより広く知ってもらうことで、札幌チャレンジドを必要としている人とつながります。
2. 既存のつながりとの関係性を高めることで、新たなニーズを把握していきます。
3. 北海道内に限らず、全国的なつながりを広げることで、活動の幅を広げていきます。

<視点2> 事業性を追求します

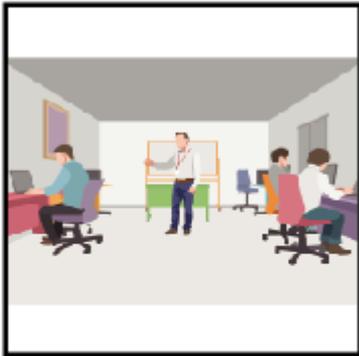
1. 就労継続支援A型事業において、新たな取引先を開拓することで札幌チャレンジドで働く就労メンバーを確実に増やしていきます。

<視点3> 革新性を追求します

1. 就労継続支援A型事業において、デザイン分野を確立します
2. 就労継続支援A型事業において、在宅就労を札幌市以外にも広げます



札幌チャレンジの活動



ITでマザル、マナブ
(パソコン講習会)
2000.05 (H12) ~



ひら あ
視覚支援ソフトで、拓き合う
(日常生活用具支援)
2002.10 (H14) ~



札幌チャレで、ハタラク
(就労継続支援サービス事業 (A型))
2006.10 (H18) ~



企業で、ハタラク
(就労移行支援サービス事業) 2011.11 (H23) ~
(就労定着支援サービス事業) 2018.04 (H30) ~



NPO法人 札幌チャレンジ

ITでマザル、ハタラク、拓き合う。

※障がい種別は問わず受け入れ



ひら あ
札幌チャレで、拓き合う
(放課後等デイサービス事業)
2017.04 (H29) ~

◆合理的配慮◆

札幌チャレンジドは **全てのチャレンジドの方が毎日通える環境づくり**を
考えています



① 入口の外側にスライドドアを外付け



② 聴覚障害者
からの声をうけて
追加貼付



③ 講師も受講者も車椅子



④ 木の落ち着いたパーテンション
集中できるようにちょっと広めに



⑤ 車椅子の人の席
カーペットに配慮



⑥ 視覚障害者に配慮したフロアー



⑦ 手すりに
点字シール



⑧ 弱視の人も
見やすいように



講習グループ

チャレンジドの方がパソコンやタブレットの
使い方を教えています

パソコン・タブレット等のIT講習を展開

～ご自宅への訪問講習も実施～



① パソコン講習会

パソコンやタブレット等の
入門から応用レベルまで、
様々な内容の団体講習を
開催しています。



② 出前講習

ご希望の内容で、
ご希望の場所へ、
講習にお伺いします。



③ ご自宅への訪問講習

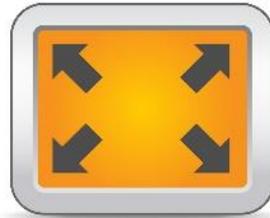
ご自宅を訪問し、今ご使用の
パソコンで個人指導いたします。

◆ 札幌市障がい者ITサポートセンター事業 (札幌市からの委託事業)

- 1) 札幌市身体障害者福祉センター (西区二十四軒) でのパソコン講習
- 2) 札幌市パソコンボランティアの養成・活用による訪問講習

◆ 日常生活用具導入支援 ◆

視覚に障がいのある人への情報/通信機器、ソフト等の提供により、
社会参加への道を拓き合う



・読み上げソフト等 他視覚者用ソフト拡大読書機等の購入サポート支援
(導入設置、操作指導...)

・PC-Talker ・MY READ ・MY Word ・MY MAIL ・MY News ・Focus Talk



移行グループ

1. 札幌チャレンジドで就職に向けた訓練をしています
2. 就労定着の支援をしています

～あなたに寄り添って二人三脚で支援！

就職後も安心フォロー～



① PCスキルアップ訓練

基礎から応用、
日商PC検定対策など



② コミュニケーション訓練

自己肯定感高め、人を
思いやる心を大切にする

これらをベースとした
50以上のプログラムで
「社会人基礎力」
を身につけます！

◆ 定員10名 ◆

就職者数 **40名** (一般就労)

就職率 **66.7%**

職場定着率 **70.0%**

実績：2012(H24)年1月～2018 (H30) 年3月



放課後等デイサービス

中学生・高校生の方が
パソコンやタブレットの使い方を学びます

I T 講習でスキルを身につける

～一人ひとりのキャリアデザインを描く～

- ◆対象者：障害のある中学生及び高校生
- ◆定員：10名（送迎はありません）

◆キャリアデザインセンターを目指す札チャレ放課後等デイサービス◆

一人ひとりのカリキュラムで進む・マナブ



進学や就職など自分のキャリアを描く

※「キャリアデザイン」とは：

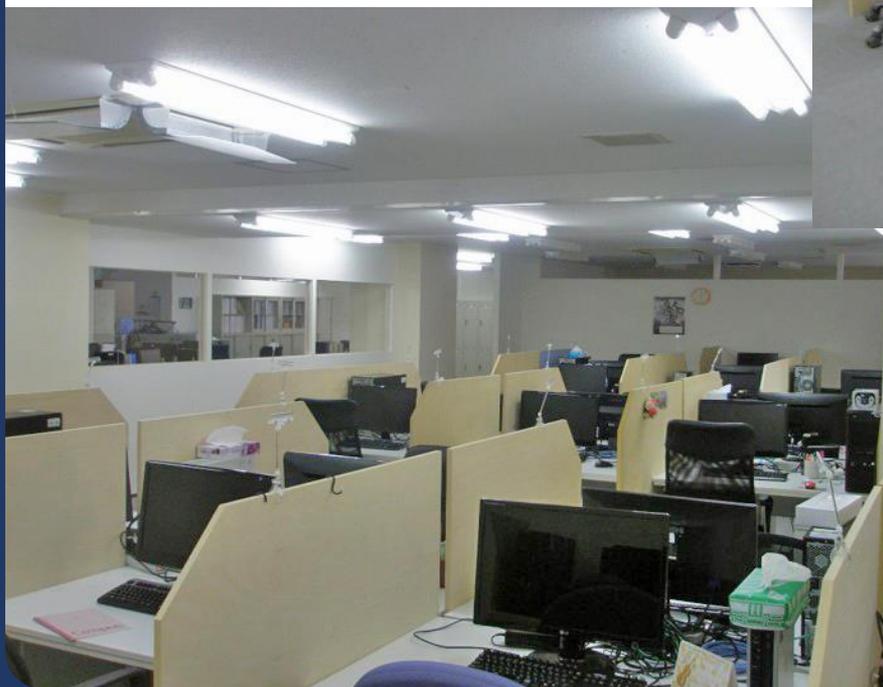
自分の仕事（働くこと）について自身の個性や興味などを踏まえて自ら道筋・目標を描いていくこと



札チャレで、ハタラク —就労継続支援サービス事業（A型）—



就労グループ



1. 既存顧客のニーズに応えるメンバーの発掘及び人材の育成
2. 多様化するメンバー個々の特性・状況にマッチする仕事のマッチングの充実
3. 次の時代に即したA型事業の在り方を考え、その姿を率先して実現
4. 全障テレネットで集約・検討する動向を政策として国へ提言



札幌チャレンジド A型事業の考え方

自分らしく働く

～各々の能力を発揮した、質の高い業務を目指す～



NPO法人 札幌チャレンジド

ITでマザル、ハタラク、拓き合う。

やる気のある人
働く力がある人
能力のある人

働く場を提供

◆ 主な業務内容 ◆



① 動画監視

サイトに投稿された内容について確認を行います。



② 海外航空券予約サイト DB 入力

お取引先から指定された条件に沿って、航空券に関わる各種データを入力します。



③ 各種データ入力

お取引先から指定された条件に沿ってデータを管理・入力します。



④ イラスト・デザイン制作

キャラクター、ロゴ、挿絵をはじめポスターやチラシデザイン等を作成します。



⑤ Webアクセシビリティ検査

指定資格検定を受けたのち、検査員として業務を行います。



⑥ ホームページ制作・更新

依頼主のニーズにあわせてデザイン・プログラミングを行います。



札幌チャレンジド A型事業の現状

利用者数：**40名/内在宅7名** (2018/04/01)

◆定員**30名**

平均年齢**38.1歳**

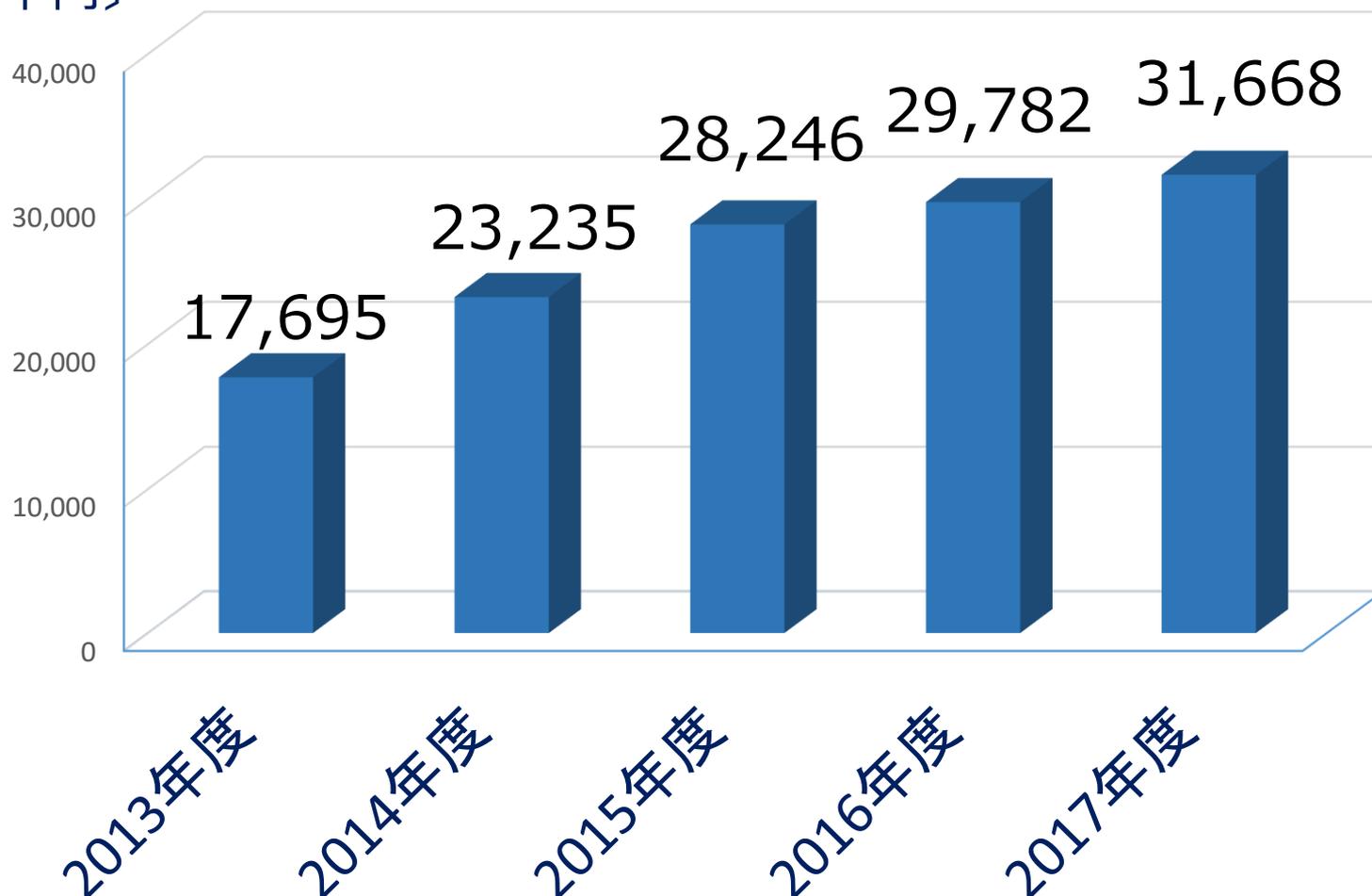
(女性21名・男性19名)

身体（上肢・下肢）	：	16名	(40.0%)
精神・発達	：	16名	(40.0%)
知的	：	1名	(2.5%)
診断書・難病	：	7名	(17.5%)

※障がい種別は問わず受け入れ（実力重視）

チャレンジドへの支払い賃金総額

〔単位：千円〕



Point1 : 2種類の利用体系

①雇用契約 / 社会保険加入

雇用保険 : ※週20時間以上の安定した勤務 : 26名 (65.0%)

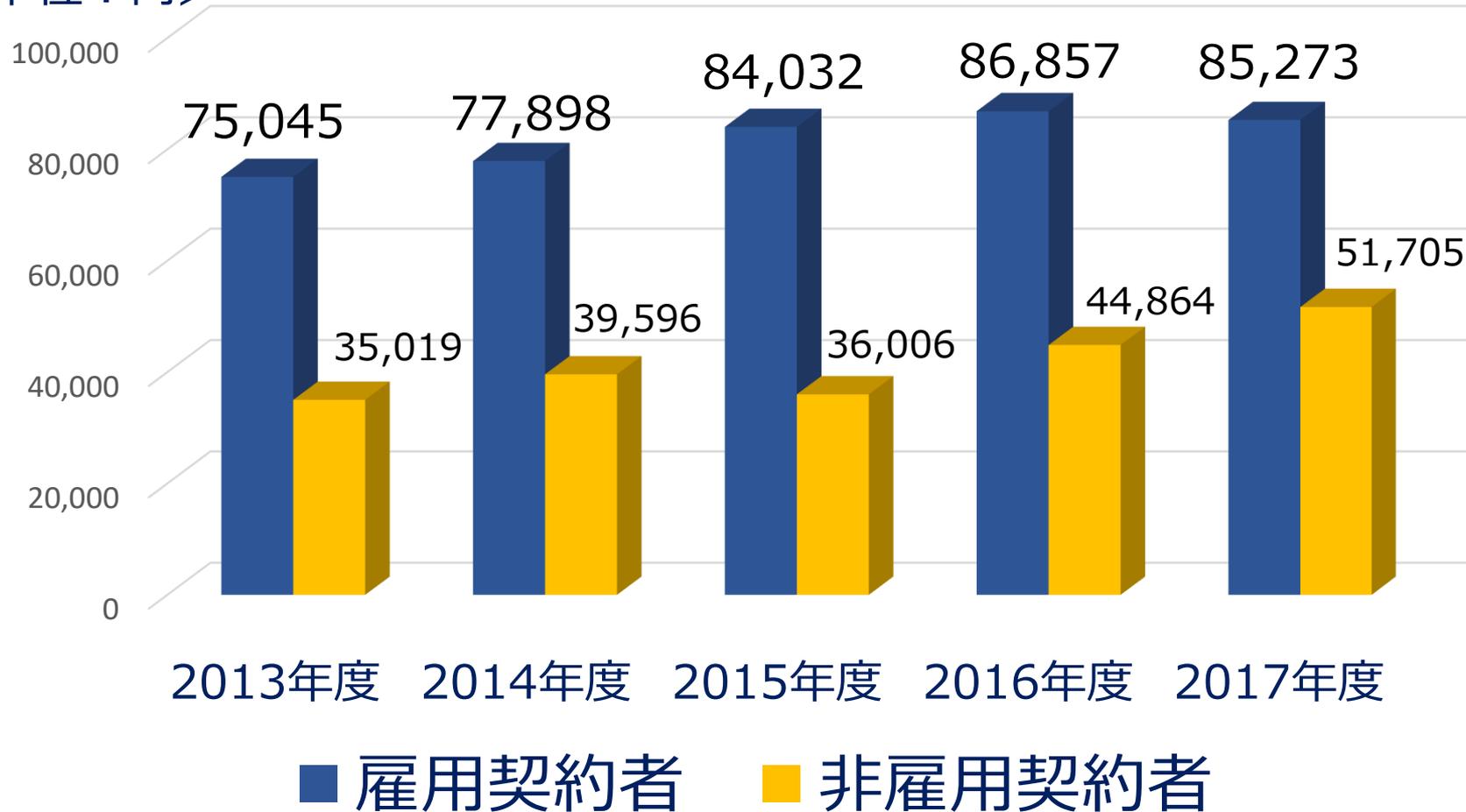
社会保険 : ※週30時間以上の安定した勤務 : 5名 (12.5%)

②A型サービス利用 : 14名 (35.0%)

20時間以上の勤務が可能か、作業能力がマッチングしているかを把握する、ステップアップの期間です

チャレンジの一人平均月額賃金

〔単位：円〕



Point2 : 2種類の働き方

A型の働き方は「**通所**」「**在宅**」の2種類。

また、厚生労働省の「**在宅就業支援団体**」

（登録No.01）としても登録しています。

※利用者数：**40名**

通所33名 (82.5%)

在宅 7名 (17.5%)

※働き方については、諸条件等があり、
本人希望だけでは在宅就労は受けません。



Point3 : 企業（クライアント）の開拓

★すべて「口コミ」での引き合い★

札幌チャレンジは営業活動はしていません

実施していることは

新聞/TV/ラジオ等メディアへの「**広報活動**」



Facebook

ホームページ

※非常に時間はかかっていますが！！

Point4 : クライアントとの関係性

業務品質の実績評価で
企業のパートナーに

最初、企業は「**おためし**」で業務依頼
(CSRやコストダウンの観点で?)



福祉作業所でなくアウトソーシング先の業務品質を
一人ひとりが「**丁寧に**」
何人かで仕事を「**シェア**」 ⇒ **クオリティ評価を**

課題

1. 業務量変更に伴うメンバーローテーション
※ マッチング業務の探索
2. 業務内容にマッチングした
新規利用メンバーの採用



NPO法人 ITでマザル、ハタラク、拓き合う。

札幌チャレンジド

◆団体理念◆

**自立を目指すチャレンジド※1（障がいのある方）が
「ITでマザル・ハタラク・拓き合う」社会を創ります**

ご清聴ありがとうございました

特定非営利活動法人（NPO法人）

札幌チャレンジド

〒060-0807

札幌市北区北7条西6丁目1番地 北苑（ホクイン）ビル2階

プロフィール

水野 智大

昭和 53 年生まれ 年齢 40 才

平成 8 年 4 月～平成 14 年 3 月

(有) 大和牧場

競走馬の生産・育成

平成 18 年 4 月～平成 20 年 4 月

市立小樽第二病院

脳神経外科看護師

平成 20 年 5 月～平成 29 年 2 月

医療法人社団大藏会

精神科看護師

札幌佐藤病院

(師長)

平成 28 年 8 月 15 日～現在

一般社団法人

代表理事

Agricola

一般社団法人 Agricola 事業内容

<概要>

2017 年 4 月 1 日指定の就労継続支援 A 型事業所。350a の農地を借地し、1500 羽の平飼い自然養鶏及び有機野菜の生産を行なっている。スタッフは精神科看護歴 10 年以上の看護師 2 名が常駐。服薬の相談やコミュニケーションに関する相談を通して、積極的に病院側とコンタクトを取り、減薬や医療的なフォローができることを強みとしている。

<養鶏>

2017 年 4 月時点で 400 羽を飼育。一年かけて約 1000 羽増やし、2018 年 6 月時点で 1500 羽を飼育。約 1000 個/日程度の卵を出荷している。出荷先は co-op さっぽろ及び北雄ラッキーを始め、当別道の駅（農協直売所）、札幌市内の自然食にこだわったスーパーやフレンチ・イタリアン・和食等のレストラン、個人など。2018 年 10 月に 400 羽増やし、1900 羽にする予定。2018 年度内には 2000 羽、2019 年度内に 2500 羽を目標としている。

<有機野菜>

2017 年 10 月に 196a を有機圃場として認定される。品目は馬鈴薯、トマト、ナス、オクラ、スナップエンドウ、ホワイトコーン、かぼちゃ、ズッキーニ、水稻、山栗など。出荷先は当別道の駅（農協直売所）、札幌市内のレストランや co-op さっぽろなど。



精神・発達障がいのある人に、あたりまえの労働を
～地域に支えられたひかり工房の取り組みから～

社会福祉法人 さっぽろひかり福祉会の沿革

～障がいのある人たちと ともに働き、生活をささえる～

2003(平成15)年 精神障害者授産施設「ひかり授産施設」

精神障害者地域生活支援センター「あさかげ生活支援センター」

「グループホームクレスト元町」

さっぽろひかり福祉後援会 会員約280名



2006(平成18)年10月 相談支援事業所「相談室あさかげ」・地域活動支援センター「あさかげ生活支援センター」へ移行

2007(平成19)年4月 「ひかり授産施設」を就労継続支援B型、就労移行支援(多機能型)事業「ひかり工房」へ移行

2010(平成22年)4月 光共同作業所を、就労継続支援B型「光ファクトリー」へ移行

2014(平成26)年4月 「ひかり工房」就労継続支援A型(10名)、就労継続支援B型(10名)、

就労移行支援(15名)へ変更

2016(平成28)年4月 「ひかり工房」就労継続支援A型(15名)、就労継続支援B型(13名)、就労移行支援(12名)へ変更

2016(平成28)年10月 「第2ひかり工房」就労継続支援A型(10名)

さっぽろひかり福祉会で大切にしたい視点 『A型事業は「権利性の回復」』

「授産事業に対する労働基準法の適用除外について」(26年通達)により、多くの障害者が働く福祉的就労(非雇用型)の場が、労働法規の適用から隔絶されてきた。

失われた権利の回復

障害者の違法な無権利状態の克服を第一義的に考える。

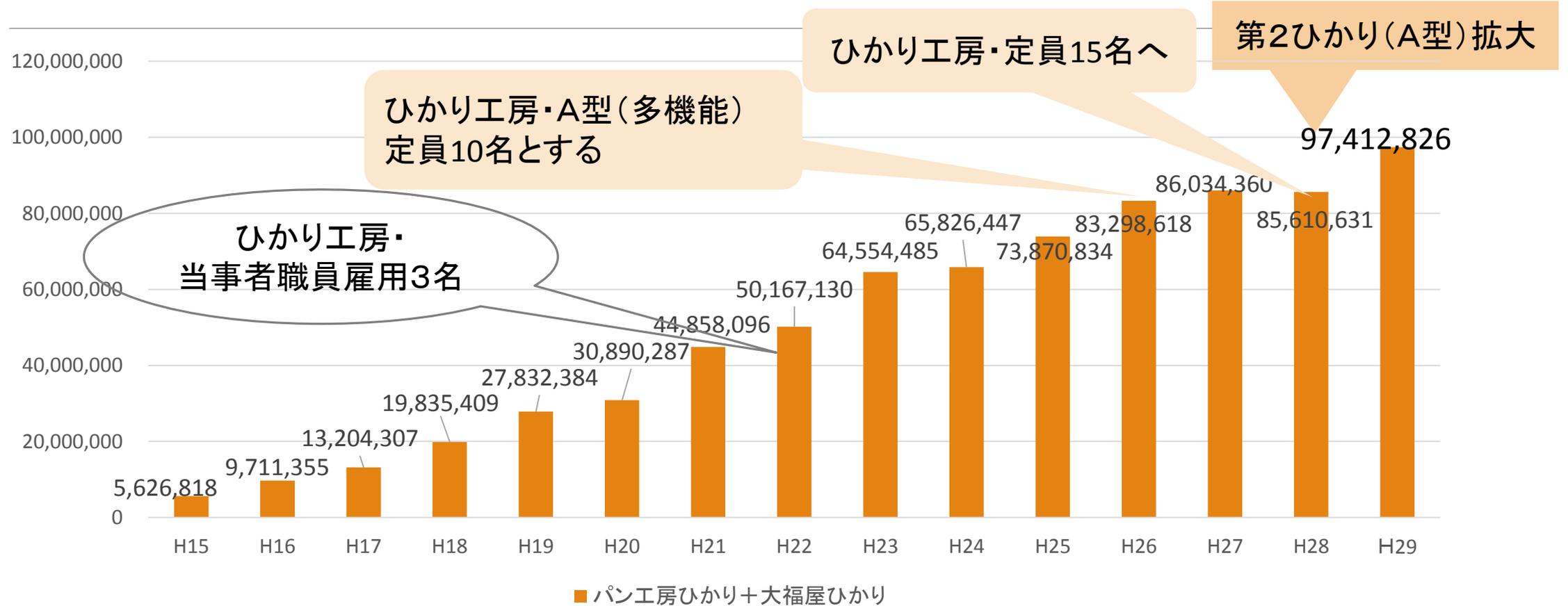
それぞれの自己実現

さっぽろひかり福祉会A型事業の概要

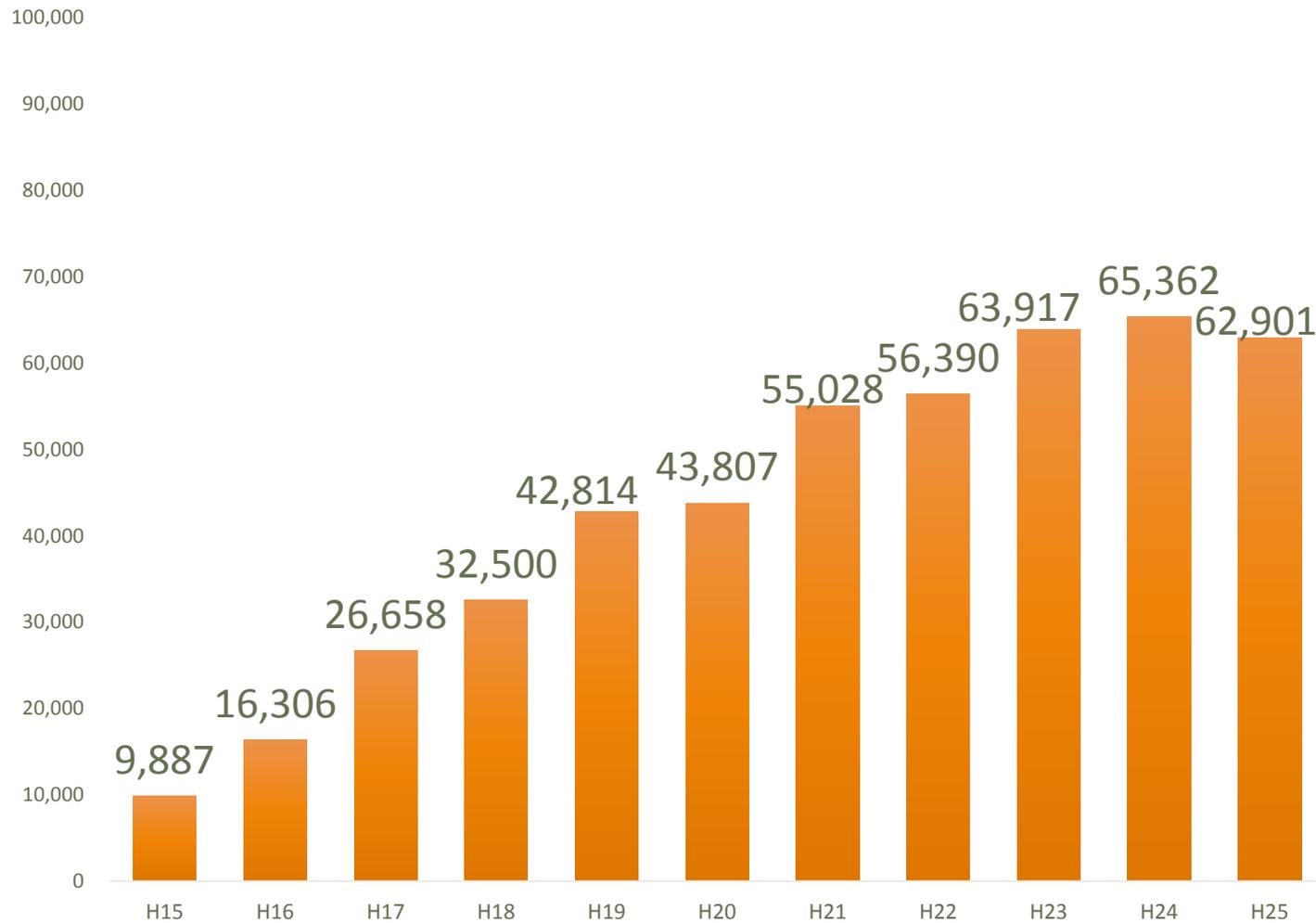
目的:精神・発達に障がいのある人たちの所得保障と雇用の実現～誰もが働きやすい社会を目指して～

	ひかり工房(多機能型)	第2ひかり工房(単独型)
事業種別 (定員)	就労継続支援A型(15名)、就労継続支援B型(13名)、 就労移行(12名)	就労継続支援A型(10名)
作業内容	パンの製造・販売	大福の製造・販売
職員体制	管理者兼サービス管理責任者(1名) 職業指導員(常3名※兼務1名、非2名) 就労支援員(常1名) 生活支援員(常1名、非2名) 賃金向上達成指導員(常1名※兼務、非2名) 目標工賃達成指導員(非2名) ※うち障害者雇用6名	管理者兼サービス管理責任者(1名) 職業指導員(常1名※兼務) 生活支援員(常1名) 賃金向上達成指導員(常1名)

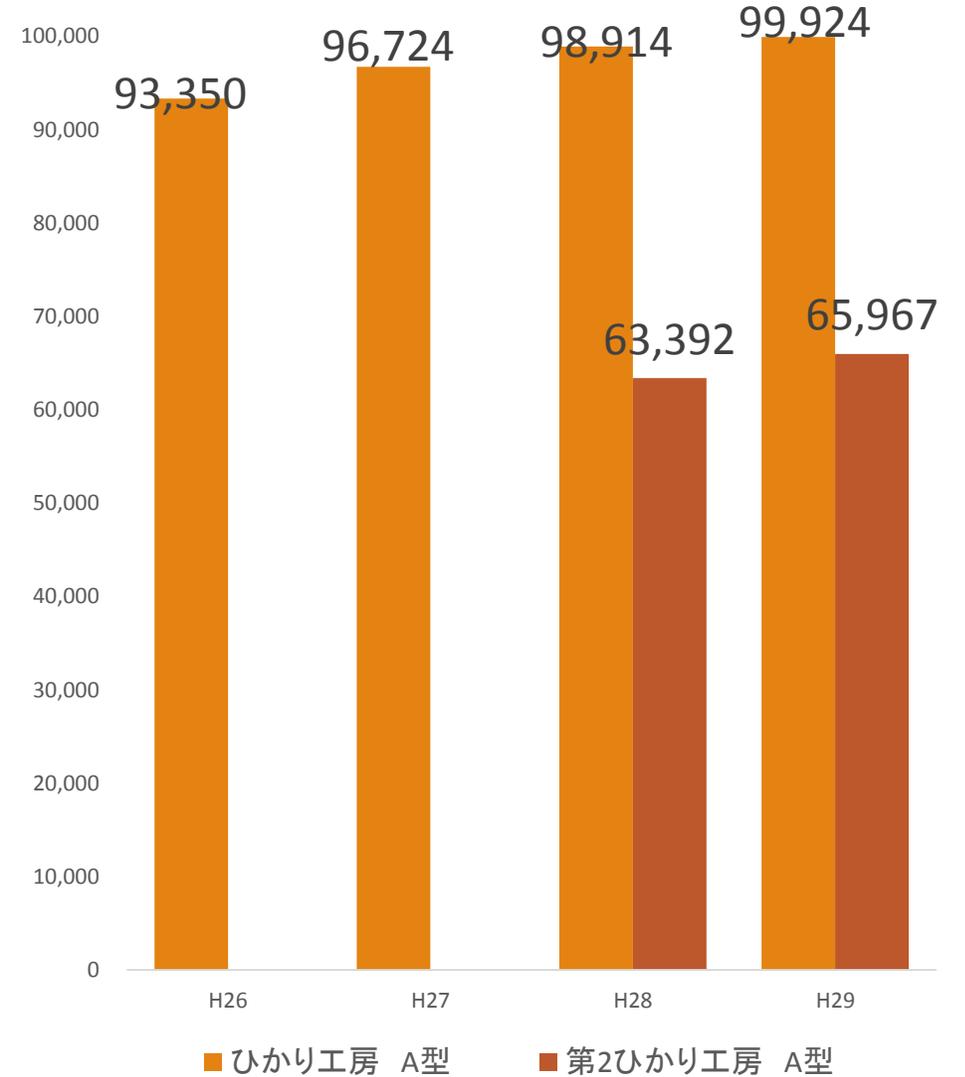
パン・大福年間売上の推移 (H15年度～H29年度)



ひかり工房 平均工賃(H15~H25) 就労移行・就労B



ひかり工房A型・第2ひかり工房 A型 平均賃金(H26~H29)



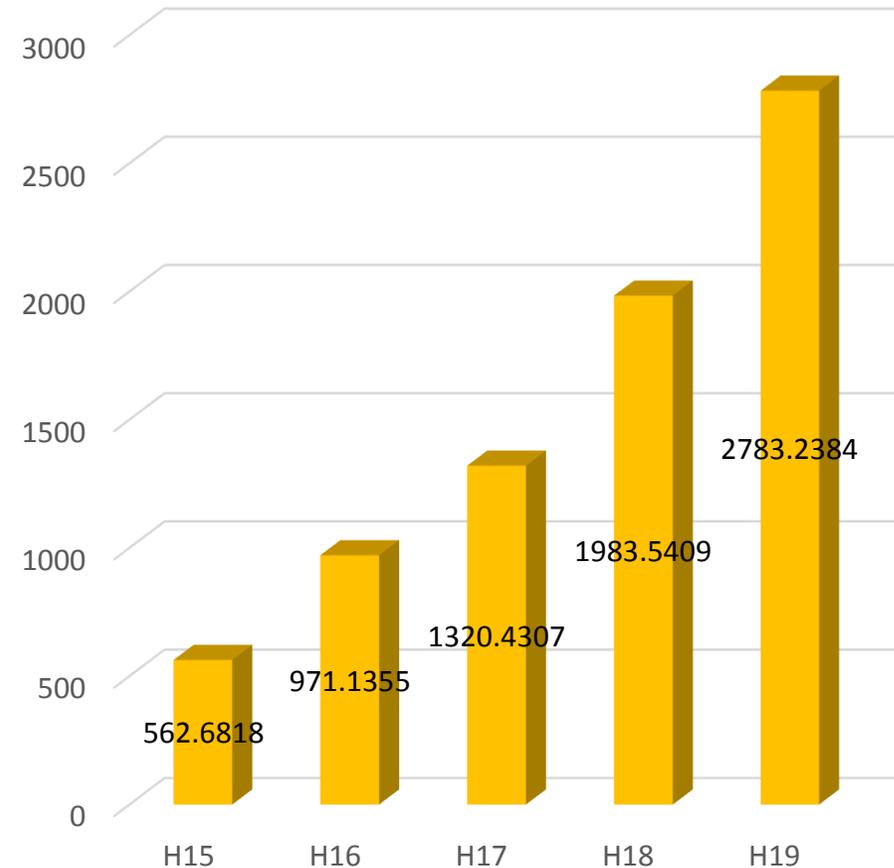
ホッフ!

(H15年度→H19年度)

『5年で売上5倍、平均工賃3万円超』

- 一流のプロから学ぶ(パン職人の雇用)
- 外国産小麦から道産小麦への転換
- 道南・森町の自然有精卵使用など
- 天然酵母パン等の商品開発
- 販路拡大(直販先ルートの開拓)
- 地域密着型に活路(さっぽろひかり福祉後援会)
- 行政、関係企業、精神科病院、学校

製造複数体制の構築



ステップ!

(H20年度→H25年度)

『平均工賃6万5千円へ』

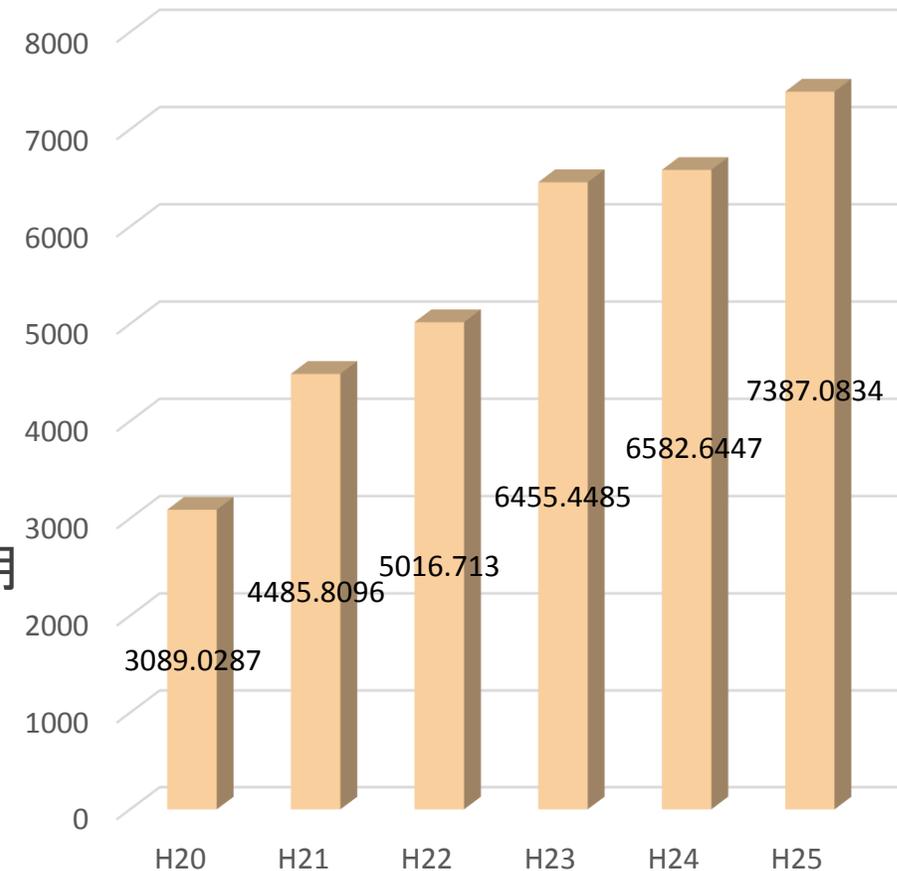
企業・大学とのデザイン連携

販売先100カ所超(地域ネットワーク構築)

大学からの大量受注(2100set@800)

工房設備、店舗の増設

人材育成により、当事者リーダー6名の職員雇用



ジャンプ!!

(H26年度～)

『A型事業開始、雇用事業拡大！へ』

課題① 石窯オーブンの導入(助成金)による
石窯パンのアピール

課題② 差別化・看板商品の開発

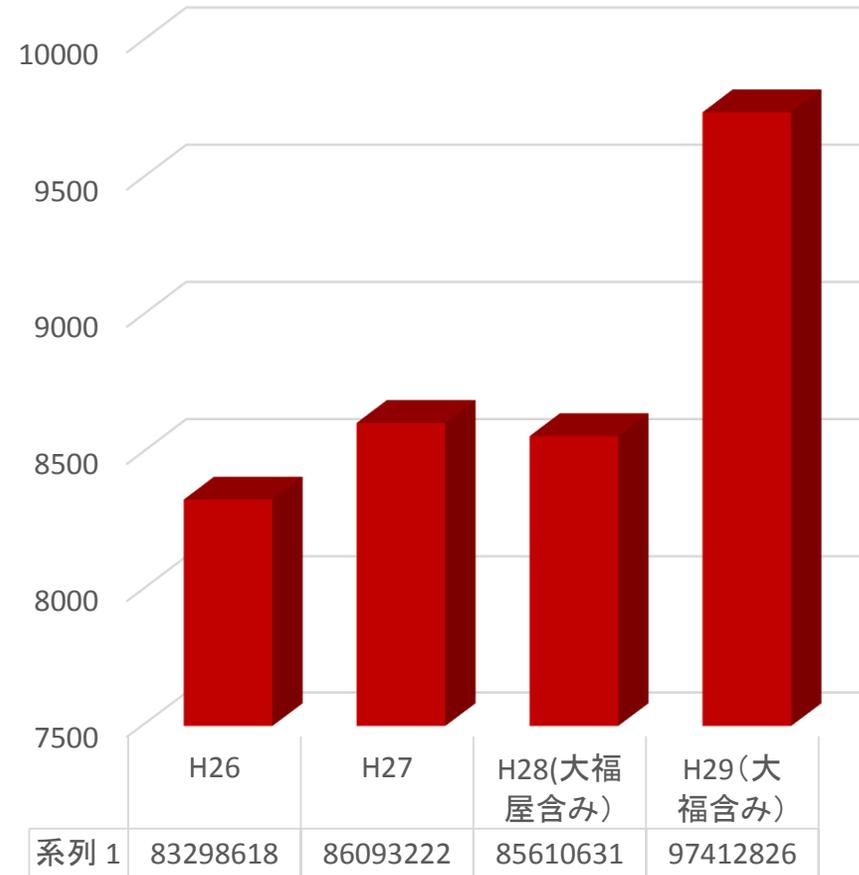
課題③ 製造工程の効率化

課題④ より身近な地域のお客さまを増やす

課題⑤ 所得保障と働くモチベーションのアップ

課題⑥ 現店舗(パン工房ひかり+大福屋)
売上10倍計画

課題⑦ パンをとおして、地域に根ざし、地域貢献

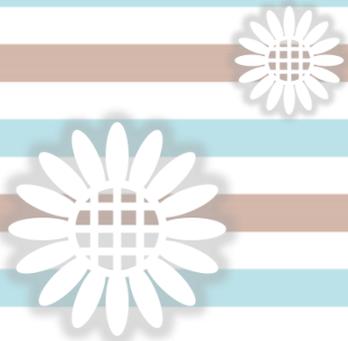


まとめ

- A型事業開始までに11年
- 半径13kmを中心とした販路、地域に集中したお客さまづくり
- そして、広域から狭域へ
- 地産地消(地元の食材を活かした商品)
- 人材育成は、コミュニケーション力よりものづくり
- 集中化(商品はパンに集中)
- 単純化(工程は単純化)
- 規則化(販売は規則化)
- 働きがいのある職場づくり、ともに働く職場づくり

就労継続支援 A 型事業所 **One Life**

法人名	株式会社シーケンス
所在地	〒003-0002 札幌市白石区東札幌 2 条 6 丁目 8 番 21 号 第 5 トーホービル 201 号 TEL 011-799-0960 FAX 011-799-0961
創 立	平成 26 年 10 月
事業内容	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 に基づく障害福祉サービス事業 平成 27 年 3 月 4 日 指定障害福祉サービス事業認定（就労継続支援 A 型）
協力医療機関	・ハートロジメンタルクリニック / 心療内科・精神科 ・札幌なかまの杜クリニック / 精神科・心療内科・内科
沿 革	平成 26 年 10 月 法人創立 平成 27 年 3 月 指定障害福祉サービス事業認定 平成 27 年 3 月 「One Life」事業開始 平成 30 年 7 月現在定員 33 人
作業内容	主な作業は通販事業。Web サイトへの商品登録、 梱包、発送、商品のクリーニング、お客様とのメール対応、 在庫管理。Web サイト制作、パンフレット、チラシ、POP 制作、 商品開発、商品作成、業務委託作業。
その他	地下鉄東西線 白石駅 4 番から 1 分 食事提供・送迎を行っている。



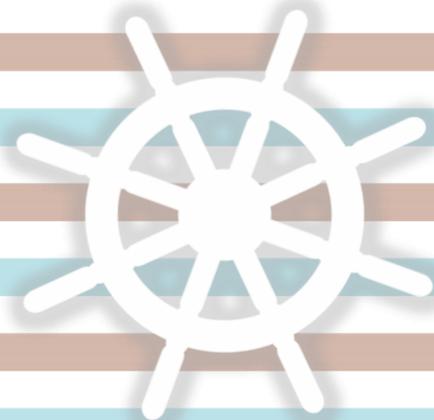
分科会2

A型における就労支援を考える～中間的就労の試み

株式会社ラダーサポート

就労継続支援A型 ラダーサポート

管理者兼サービス管理責任者 千葉 美穂子





Ladder Support



緑 親会社住所: 札幌市白石区本郷通3丁目南4番11号

黒 事務所住所: 札幌市白石区中央1条6丁目9-1

一日の流れ

定員 15名
ビル 6名
事務 4名

ビルクリーニング ◆施設外◆

08:00 清掃業務

12:00 休憩

13:00 休憩・自習

14:00 プログラム

15:00 後片付け

事務・アウトソーシング ◆施設内◆

09:00 室内業務

12:00 休憩

13:00 室内業務

14:00 プログラム

15:00 後片付け

～ 働く ～

◆ **こんな人が働けます** ◆

- **短い時間じゃないと働けない**
- **一般就労はまだ難しいけど目指したい**
- **働いて給料をしっかりともらいたい**
- **働きながら就職活動がしたい**

～ 働く ～

◆ こんなお仕事をしています ◆

<ビルクリーニング業務(施設外作業)>

親会社より委託を受け清掃業務を行います

<アウトソーシング業務>

企業等より委託を受け、広報誌の作成、
名簿作成、宛名印刷・封入等発送業務、
営業パンフレット作成などを行います

<事務>

個人情報などにはかかわらない
内部の簡単な事務作業を行います

～サポート～

◆こんなお手伝いをします◆

- よい仕事ができやすくなるよう共に考えます。
- 「もっと働きたい」という気持ちを応援します。
- 長く働くためのお手伝いをします。
- 次のステップのために必要なことを一緒に見つけます。
- 生活の場面で困っていることと、これからの生活を、家族を含めて一緒に考えます。

～ 学 ぶ ～

◆生活について学ぶ◆

- ・日常生活を送る上で必要な技能や知識について学びます

◆仕事について学ぶ◆

- ・仕事をする際に必要な技能や知識を学びます

(パソコン講座、ビジネスマナー講座、就職活動訓練等)

◆コミュニケーションについて学ぶ◆

- ・コミュニケーション技能の向上を図ります

(SST・社会生活技能訓練、手話講座、3分間スピーチ等)

◆自分を助ける方法について学ぶ◆

- ・自分を助ける方法(自己理解、社会資源等)を学びます

仕事をして学ぶ・プログラムで学ぶ

◆仕事をして学ぶ◆

毎日の業務の中で、体調管理、挨拶、報告・連絡・相談・提案、与えられた業務を時間内に遂行する等の支援。

◆プログラムで学ぶ◆

4時間の仕事を終え、事務所へ集まり、働く意味、就職活動、働き続けること、社会資源の活用、趣味や興味の幅を広げる、他者との交流や意見交換等を行う時間を無給で開催。

新しい事へチャレンジ！！

◆一般就労に向けて◆

・今までに学んだことを
活かし、関係機関と連携し、
就職活動を応援します。

◆就労後のサポート◆

・就労後も企業と連携し、
働き続けられるよう、サ
ポートします。



事業所としての方針 1

- ・相談支援機関からの紹介が殆どではあるが、ハローワーク、元気さーちからの紹介者には、できるだけ相談支援機関と関わるよう、家族を含めた支援、隙間のない支援をしてもらえる等のメリットを伝え、利用を勧める。

(現在 9名中 6名が利用)

- ・利用者の希望や得意な事、苦手な事を把握し、無理のない範囲で働き始める。(利用開始時のアセスメント、相談支援機関などからの情報提供等)

- ・一般企業で働くために最低限必要な知識、技能を身につくよう助言、支援する。(業務内、プログラム)

事業所としての方針 2

- ・基本は1日4時間、週5日であっても、それまでの生活状況から、週2～4日勤務からはじめ、個別面談や、職業指導員からの日々の働きぶりの報告、その他の職員の巡回時の様子から勤務日数を増やしたり、難しい場合は、他の事業所(B型、就労移行等)を紹介する。
- ・利用者であっても、雇用契約を結んでいるパート職員としての働きぶりを評価基準としている。
- ・事業所内だけの評価ではなく、関係機関の担当者に働いている様子を見てもらったり、ケース会議や、面談の内容を報告し、意見交換を不定期ではあるが行って評価する。

事業所としての支援

- ・障がい特性にあわせた指示。
- ・誰もがわかりやすいマニュアルの作成。
- ・障がい上、できない事への配慮と、他の利用者への説明。
- ・将来を見据え、今できること、覚えておいた方がよい社会的マナー・ビジネスマナー。
- ・体調不良になる前のサインを見逃さない。
- ・悩み事は、どの職員でも対応する。
- ・話やすい環境づくり。
- ・共に働いていることの労いと尊敬の言葉がけと態度。

成 果

- ・働くことで賃金収入を得ることで、生活状況が安定する。
- ・働ける時間、業務内容等、自分の力量がわかり、希望する職種を想像できる。
- ・午後のプログラムでSST、〇分間スピーチ、模擬会社体験、まわし読み新聞、茶話会等で、チームワークや他者を理解する力をつけることで、就職後も職場でのコミュニケーションに自信が持てる。
- ・関係機関がラダーサポートの取組みを評価してくださり、利用者の紹介や、利用中に就職活動について協働していただいている。
- ・業務の拡大を図り、より多くの“働きづらさ”を感じている方々を受け入れたい。

利用者の方の声(退所者含む)

- ・職場では働く者としての報告や連絡、相談ができるようになった。
- ・いろいろな人が居て、いろいろな障がい者も居て、考え方も違う人が居て会社が成り立っていることがわかった。
- ・自分では「こんなこと・・・。」と思うことが他の人も同じ気持ちだと休憩中や、茶話会などで知ることができた。
- ・職場で学んだことはもちろん、プログラムで学んだことが今の職場で活かすことができている。
- ・今までは会社の理解がなく、待遇も悪かった。自分には支援者、理解者がいることで働き続けることができるとわかった。

退所の理由

- 4時間の勤務には耐えられない。
 - 昼夜逆転しているなので、午前中の勤務はできない。
 - 他の利用者と折り合いが悪い。
 - 1年間、休まず通ったので、辞める。
 - 業務内容が自分の力量にあっていない。
 - 最低賃金しかもらえないので、辞める。
 - もっと長い時間働きたいので、辞める。
 - 病状が悪化したので、辞める。
-
- 就活の結果、合格した。
 - 結婚準備のため、辞める。
 - 就活にじっくり時間をかけたいので辞める。

講演者プロフィール

【且田久美】

1974年 高知県出身

エフピコダックス(株) 企画支援部 マネージャー

(株)九神ファームめむろ 取締役

NPO 法人プロジェクトめむろ 副理事長

通勤寮生活支援員、グループホームサービス管理責任(地域生活)として、約 9 年間障害者の生活支援に携わり、その後、サービス管理責任者(就労)を取得。

2009 年簡易食品容器製造大手 (株)エフピコの特例子会社、エフピコダックス(株)福山工場の設立にともない、障害者雇用責任者として着任する。

(株)エフピコグループ約 370 名の雇用に関わる一方で、取引先を中心に障がい者雇用コンサルタントとしても活動し、自治体と企業を繋ぎ障がい者の雇用を生むプロジェクトを複数件手がけている。

大会宣言(案)

就労継続支援 A 型事業は、通常の事業所に雇用されることが困難な障がい者につき、就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、その知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う、雇用契約に基づく事業です。労働法規が適用になるため、原則として最低賃金を保障するしくみであり、労働者としての処遇が求められます。また同時に福祉事業であるので、福祉サービス利用契約を結びます。

今年 4 月の運営基準改正以降の厳しい状況を踏まえ、北海道から A 型事業所の果たす役割について三つの視点から考えました。

1 点目は、「経営のあり方」について、多様な雇用モデルを元に討議しました。

2 点目は、「中間的就労」の視点から、働きがいのある仕事の提供、働く中で就労支援、中間的就労の取組みについて学びました。

3 点目は、「まちづくり」の視点から、誰もが、当たり前前に働いて生きていけるまちづくりにおける A 型事業所の役割を考えました。

北海道は、人口減少が急速に進んでいます。どの自治体も面積が広く、効率化や収益性の実現が困難な地域性があります。そのような地域性も踏まえて北海道の障がいのある人にとって A 型事業所の必要性は大きく、健全で持続可能な経営が求められます。

わたしたちは、このフォーラムで議論された様々な本質、学びを活かしていくように、連携して努力していきます。

2018 年 8 月 4 日

就労継続支援 A 型事業所全国協議会(全 A ネット)

「はたらく NIPPON ! 計画」 A 型フォーラム in 札幌

大会実行委員会、参加者一同

「はたらく NIPPON! 計画」 A 型フォーラム in 札幌

北海道から A 型事業所の果たす役割について

平成 30 年 8 月 3 日 (土) 10:00~15:00

札幌 ACU-A (アスティー45)

報告書

参加人数 (スタッフ含む) 130 名人以上。

10:00~12:00 3 会場に分かれ分科会

●分科会 1 「多様な雇用モデルから学ぶ経営改善のヒントとその未来」

コーディネータ 法政大学名誉教授 松井亮輔氏

パネリスト NPO 法人札幌チャレンジド理事・事務局長 岡野裕幸氏

一般社団法人 Agricola(アグリコラ) 代表理事水野智大氏

社会福祉法人さっぽろひかり福祉会常務理事小畑有希氏

A 型にとって事業の確立は重要事項です。様々な事例から経営改善のヒントと A 型事業の未来を探ります。

●分科会 2 「A 型における就労支援を考える～中間的就労の試み…などなど」

コーディネータ 株式会社シムス 代表取締役 斎藤規和氏

パネリスト 株式会社シーケンス 代表取締役

就労継続支援 A 型事業所 OneLife 管理者 高山真也氏

株式会社ラダーサポート 就労継続支援 A 型事業所ラダーサポート管理者兼サービス管理責任者 千葉美穂子氏

一般就労が難しい障害者にとって、A 型事業所の存在はなくてはならないものです。一般就労へのステップでありたい。

●分科会 3 「誰もが、当たり前前に働いて生きていける町へ」

コーディネータ NPO 法人 L and P (エルアンドピー)

管理者兼サービス管理責任者 高志博明氏

コーディネータ NPO 法人プロジェクトめむろ副理事長

(エフピコグループ特例子会社エフピコダックス株式

会社 福山選別工場課長 且田久美氏

保険証を持てる A 型事業所の存在は素晴らしいものである。A 型事業所の果たす役割は重要である。

休憩 12:00～13:00

全体ミーティング 13:00～15:00

●分科会からの報告

●全体ディスカッション「A 型事業所の果たす役割」

・事業所によっては、時間にとらわれない働き方を実践している事業所もある。

・経営改善のヒントは、独自性のあるものを作ることが生き延びる。

・5～10年の事業計画を立てて実行することが大切。

・普通の会社との違いは、何かしらの障害がある人と仕事をしている。

・福祉のプロとビジネスのプロの両立が大切である。

・いろいろな経営改善のヒントの本読んで実感がない。

・やる気が大切。

・障害のある人の働ける場がないのはダメである。

●且田さんに意見を求める。

・社会保険証を渡すことが出来る A 型事業所は素晴らしい仕組みだと思う。

・赤 A ネットを作りました。

・今後は手帳を持っている人だけでなくもっと幅を広げ、若い人、高齢者などにも A 型が利用できる仕組みを作る必要があるのでは？

- ・ A だ B だ移行だと言っているが本来このような制度は将来無くす方向に進まなければならない。

大会宣言

就労継続支援 A 型事業所は、通常の事業所に雇用されることが困難な障がい者につき、就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、その知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う、雇用契約に基づく事業です。労働法規が適用になるため、原則として最低賃金を保証するしくみであり、労働者としての処遇が求められます。また、同時に福祉事業であるので、福祉サービス利用契約を結びます。

今年 4 月の運営基準改定以降の厳しい状況を踏まえ、北海道から A 型事業所の果たす役割について三つの視点から考えました。

1 点目は、「経営のあり方」について、多様な雇用モデルを元に討議しました。

2 点目は、「中間的就労」の視点から、働きがいのある仕事の提供、働く中で就労支援、中間的就労の取組みについて学びました。

3 点目は、「まちづくり」の視点から、誰もが、当たり前前に働いて生きていけるまちづくりにおける A 型事業所の役割を考えました。

北海道は、人口減少が急速に進んでいます。どの自治体も面積が広く、効率化や収益性の実現が困難な地域性があります。そのような地域性も踏まえて北海道の障がいのある人にとって A 型事業所の必要性は大きく、健全で持続可能な経営が求められます。

私たちは、このフォーラムで論議された様々な本質、学びを生かしていくように、連携して努力していきます。

2018 年 8 月 4 日

就労継続支援 A 型事業所全国協議会（全 A ネット）

「はたらく NIPPON！計画」A 型フォーラム in 札幌

大会実行委員会、参加者一同